

どんな人がいるの？

彫刻	石谷 孝二	6
美学・美術史	高阪 一治	8
アートマネジメント	五島 朋子	10
舞踊	佐分利育代	12
作曲・指揮	新倉 健	14
声楽・指揮	西岡 千秋	16
デザイン	平井 覚	18

(五十音順)

石谷 孝二

教授 ISHITANI, Koji



1952年 北海道に生まれる
 1975年 岩手大学卒業
 1976年 国展彫刻部秋季展奨励賞
 1977年 愛知県立芸術大学大学院修了
 1979年 国展国画賞
 1983年 国展会友優作賞・会員推挙
 1985年 現代日本具象彫刻展
 1990年 東京芸術大学において
 文部省派遣内地研修
 1994年 昭和会展
 2000年 桜の森彫刻コンクール優秀賞
 2001年 国展75周年記念新人選抜展
 2003年 鳥取県教育表彰
 2007年 3館共同企画郷土作家展
 「海と空と」
 2007年 鳥取市文化賞
 2009年 世界砂像選手権審査委員
 2010年 仁風閣の樹下美人
 石谷孝二 加彩テラコッタ展

●個展11回

研究テーマ

現代具象彫刻の研究
 彫刻の発想法の研究

主催している事業

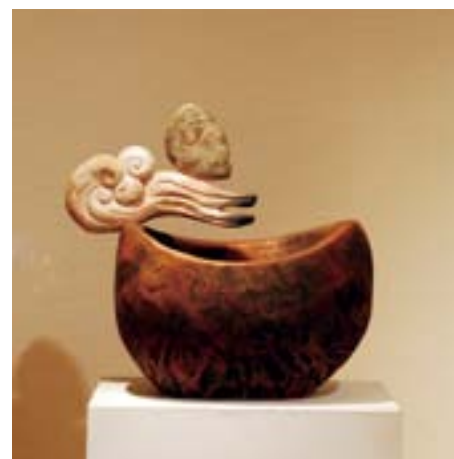
- ①主に講演系事業（アートフォーラム）の企画・運営
- ②鳥取県野外彫刻データマップの作成と広報

所属している団体

国画会 会員
 日本美術家連盟 会員



1



2

人物や自然、さらにはそれらの融和をモチーフに現代の具象彫刻を模索しています。

素材としては木彫を中心にブロンズ、テラコッタを主な表現手段としています。

森羅万象の根源的なフォルムを抽出し、素材の特性と造形の意図とが融合した普遍的で象徴的な詩情あふれる造形様式を目指しています。



3



4



5

- | | | | |
|---------|-------|-------|---------|
| 1. 花の譜 | テラコッタ | 2010年 | H40 cm |
| 2. 湖月 | 木・金箔 | 1997年 | W71 cm |
| 3. 大河追想 | ブロンズ | 2001年 | H86 cm |
| 4. 森の譜 | 木 | 1994年 | H110 cm |
| 5. 樹下美人 | 木・真鍮 | 1998年 | H220 cm |
| 右頁 樹下美人 | 木・真鍮 | 1996年 | H258 cm |
- (1 写真撮影 水本俊也)

雕刻



高阪

教授 KOSAKA, Kazuharu



一治

昭和22年大津市生まれ

同志社大学文学部文化学科（美学芸術学専攻）卒業、及び同大学文学研究科修士課程を経て博士課程後期（哲学及び哲学史専攻）中退（満期退学）。

昭和57年4月鳥取大学教養部に芸術学担当講師として着任。同助教授を経て平成2年10月教養部教授。

平成7年4月教育学部教授（美術教育・美術理論美術史）、教育学研究科担当教授。

平成11年4月教育地域科学部教授（人間文化課程芸術表現講座）。

平成13年1月より14年12月まで鳥取大学附属図書館長（この館長在任期間中、13年6月より学長裁定による副学長）。

平成16年4月鳥取大学地域学部附属芸術文化センター教授、同センター長（平成19年3月まで）。

平成19年4月より鳥取大学副学長（広報・附属図書館担当）。附属図書館長（いずれも平成23年3月まで）。地域学研究科担当教授。現在に至る。

専門はドイツ美術史（とくに19世紀）、美術理論及び美術史学の歴史。明治期の日本近代の洋画。近年は文化政策、アートマネジメント、ミュゼオロジー（博物館・美術館学）に関心が広がり、芸術文化の振興を通じた地域の発展・活性化に力を注いでいる。書物及び図書館については、早くから関心事となっている。

関心領域ははなはだ広く、人事の全般、真善美のすべてに及ぶが、とりわけ、人間の多彩で多様な創造的性格の表明である芸術活動が、時代や社会において担い、果たしてきた役割に関心がある。

芸術文化の考察をとおして人間を考え、生活と環境の改善への活用を図りたい。

- （論文）「ハンス・フォン・マレーの「ナポリのフレスコ画」について（上）」（鳥取大学教養部紀要17巻、1983）
- 「ベックリーンとマレーーベックリーンの『春のめざめ』（1880、チューリッヒ美術館）をめぐってー」（美学・芸術学6号、1991）
- 「青木繁の『狂女』考ーA.ベックリーンとの関連より見たひとつの試みー」（鳥取大学教養部紀要 27巻、1993）
- 「わが内なるイタリアーハンス・フォン・マレーの「イタリア憧憬」の図について」（文化学年報 54輯、2005）ほか

美学美術史



著書：神林、潮江、島本編
『芸術学ハンドブック』
共著分担
勁草書房
1989

所属学会

美術史学会
美学会
美学芸術学会
文化経済学会<日本>
日本アートマネジメント学会
山陰部会（のち関西部会）



ウード・クルターマン著
『美術史学の歴史』
勝・高阪訳
中央公論美術出版
1996

社会的活動

鳥取県文化芸術振興審議会委員
鳥取県総合芸術文化祭
評価委員会委員
鳥取県美術展覧会運営委員会委員
などを務めた。

ほかに鳥取大学附属図書館長としても、対外的な活動を行うほか、公開講座、講演会、セミナー等の講師をつとめた。



フランツ・ツェルガー著
『ベックリーン《死の島》』
高阪訳
三元社
1998

鳥取県事業「鳥取県の高高等教育機関『知の財産』活用推進事業調査研究」（平成17年度、18年度）の受託研究における研究代表者、など。



ペーター・シュトリーター著
『デューラー』
勝 監訳（高阪他2名訳）
中央公論社
1996

五島

准教授 GOTO, Tomoko



朋子

長崎県諫早市に生まれる。九州大学工学部建築学科卒業、同大学大学院工学研究科修士課程建築学専攻修了。西洋近代建築史を学ぶ。その後10年間、地方公務員として東京都世田谷区及び福岡市に勤務。平成10年九州芸術工科大学（平成15年九州大学と合併）大学院博士後期課程芸術工学研究科（情報伝達専攻）に進学、市民参加を促すまちづくりワークショップ、芸術文化によるまちづくりなど、実践を通じて学ぶ。平成13年満期退学。在学中より、福岡市や八女市等での様々な舞台制作や文化によるまちづくり市民活動に参加、またドイツ人演出家ペーター・ゲスナーが主宰する劇団「うずめ劇場」の制作を努める。活水女子大（長崎県）非常勤講師等を経て、平成17年鳥取大学地域学部附属芸術文化センター専任講師として着任し、現在に至る。

研究テーマ

既存の建物や都市空間を活用した芸術文化活動の企画運営、共同体によるものづくりや芸術文化活動の現代的意義の検討、地域劇場の運営。

「アートマネジメント」は、日本では1990年代から使われるようになった比較的新しい言葉のため、まだ広く共通に理解がされているとはいえないところがあります。

ごく簡単に言ってしまうと、芸術と社会を結びつける様々な活動や考え方なのですが、大きく以下の3つの意味合いがあります。①美術展覧会、演劇公演・音楽コンサートといった芸術に関する事業の企画運営を行い、気軽に様々な芸術を体験できる環境や仕組みをつくり出して行くこと、②様々な分野の芸術家が優れた作品を継続的に生み出すことのできる社会的なシステムや環境の整備をすること、そして、以上のことを通じて、③社会がもつ潜在的な可能性や能力を引き出し、より豊かな社会の創出を支援すること。ですから、アートマネジメントは、①と②に関する諸活動を展開しながら、アートの力による社会の刷新を展望する考え方であると言えます。

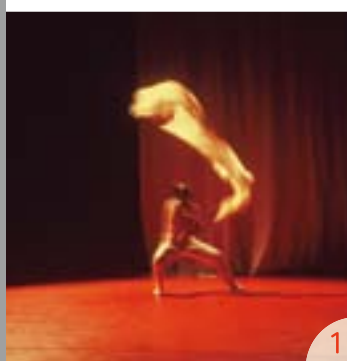
アートマネジメントの

実践

○flight公演

2000年東京のダンサー新井英夫・カナダ在住のダンサーピーター・チン、写真家シーラ・フォン・テッドマンの3名が福岡県八女市に3週間滞在して制作したダンス作品を、能楽殿（福岡市）、木造映画館（山口県柳井市）、スタジオ（東京）、工場（トロント）で上演した。

写真1. 廃工場でのトロント公演／写真2. 昭和13年築能楽殿には冷房がないので、観客席に氷柱をたてた



1 2



○八女元気計画

1972年に建設され老朽化した公立ホールの活性化に、市民グループや会館スタッフと取り組み、まちのにぎわいを再生する「わいわい春の祝いフェスティバル」（2003～2005年）などを開催し、交流、人材育成の場としての文化施設の意義を明らかにした。

写真3. 八女市の市町村会館／写真4. わいわい春の祝いフェスティバル／写真5. 同フェスティバルで上演した市民劇



3



4 5



アートマネジメント

○劇団「うずめ劇場」制作

旧東ドイツ出身の演出家ペーター・ゲスナー（現在桐朋学園芸術短期大学演劇専攻准教授）が、北九州市にて設立した劇団「うずめ劇場」制作をつとめ、地域における演劇活動の可能性を探った。

2003年 カイロ国際実験演劇祭参加（エジプト）

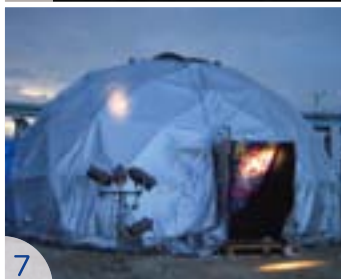
2007年 「おはよう日本」フェスティバル参加

（ライブツィヒ・ドイツ）など

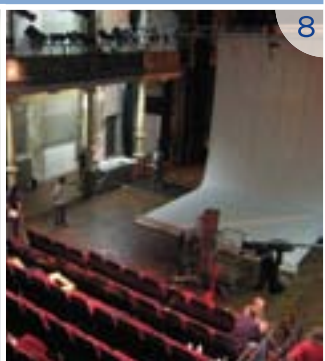
写真6. テント公演の会場は新日鉄工場跡地／写真7. 2005年唐十郎作「夜壺」上演 北九州市戸畑区1901高炉跡特設テント／写真8. ライブツィヒ公演会場は昔のダンスホール／写真9. 「アンティゴネー」ライブツィヒ公演



6



7



8



9



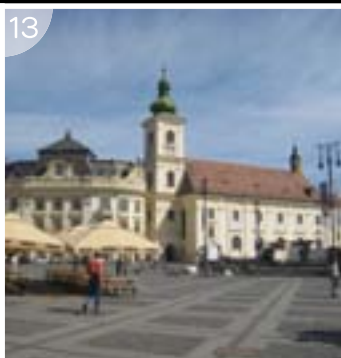
10



11



12



13

調査研究テーマ

- 低未利用空間をアート活動に生かす
- 地域における持続可能な劇場のあり方を探る
写真10. 11. 鳥の劇場・鳥取市鹿野町
- 芸術祭による空間資源活用の可能性を探る
写真12. 13. シビウ国際演劇祭・ルーマニア
- 共同体によるものづくりや芸術活動の意義を検討する

所属学会

日本アートマネジメント学会
文化経済学会
日本演劇学会
Association for Cultural
Economics International

社会的活動（2005年以降）

鳥取県文化観光局指定管理候補者
選定・審査委員会委員
鳥取市中心市街地まちづくりプロ
デュース会議委員
鳥取県第4回総合芸術文化祭評価
委員
鳥取県文化団体連合会 平成19年
度主催事業審査会審査委員
鳥取市企画推進部指定管理者選定
委員会委員長
鳥取県文化芸術振興審議会委員
鳥取県公共事業評価委員会委員
鳥取県文化振興財団評議員 など

2005年以降の報告書・論文

「地域劇団の継続的活動へむけた
支援の意義と課題～劇団「うずめ劇
場」10年間の実践を通して」
鳥取大学地域学部紀要『地域学論
集』第4巻第1号, 2007年

「「鳥の演劇祭」を評価する 文化
事業の受益者は誰か」
鳥取大学地域学部紀要『地域学論
集』第6巻第2号2009年

「オルタナティブ・スペースの創出
へ向けて 鳥取県における芸術文
化を通じた空間資源の利活用に関
する調査研究」
鳥取大学報告書（鳥取県の高等教
育機関「知の財産」活用推進事業、
2006年

佐分利 育代

教授 SABURI, Ikuyo



石川県出身

昭和47年3月

金沢大学教育学部特別教科
(保健体育)教員養成課程卒業

昭和48年3月

お茶の水女子大学文教育学部
専攻科修了

平成10年6月

ラバンセンター・ロンドン
舞踊専攻修了

昭和48年4月

石川県立鶴来高等学校教諭

昭和50年4月

鳥取大学教育学部助手

現在

鳥取大学地域学部附属
芸術文化センター教授

昭和53年より

鳥取大学ダンス部顧問

平成15年 4月より2期4年間

鳥取大学附属幼稚園長

研究テーマ

舞踊創作 舞踊教育
障害とダンス
インクルーシブ・ダンス

所属学会:

舞踊学会、日本体育学会
民俗芸術学会
アートマネジメント学会

舞踊公演

様々な年齢、様々な個性の人たちが一緒に、それぞれの作品を発表するダンス公演を、鳥取市民のサークル『ダンスコング』の仲間と開催。

「モダンダンスアピール展」昭和54年-平成15年

「こころとからだのharmony」平成16年-平成20年

「ダンスポケット春」平成18年から

「ダンスポケット秋」平成21年から



舞踊作品

「ダンスポケット春」の開始を機にインクルーシブ・ダンス作品を毎年一作ずつ発表している。

出演はADMとウエズデーズキッズ(共に佐分利主催)

時:

時を旅する。時は空間をも変える。あの時、確かにここに在ったものが記憶にだけ残る。誰でも天使だった時がある。その時も過ぎていった。時を次の時に繋ぐためにのみ、精一杯の今は在る。

「T.T.」 ダンスポケット2005春,鳥取大学アートプラザ

「時の影」 ダンスポケット2006春 in SHIKANO,鹿野町総合支所旧議場

「時の継走」 ダンスポケット2007春,鳥取市文化活動広場

「天使がいた時」ダンスポケット2008春,鳥取市文化センター多目的室

地球:

地球を鳥瞰する。人間というひとかたまりがいる。誰も彼も同じように、そしてそれぞれに、回る地球から振り落とされないように、自分の中で、他人の中で、自然の中でバランスを取る。

「鳥の目で見ると」ダンスポケット2009春,鳥取大学アートプラザ

「地球におけるバランスに関する一考察」ダンスポケット2010春,鳥取大学アートプラザ

舞踊

論文・著書

佐分利育代(1996),表現としてのダンス 動きで出合い・動きで語る,佐伯・中西新太郎・若狭蔵之助編
ルネの教室2 生活から学びへ
青木書店(pp.33~56)

佐分利育代(2004),ベトナム障害児教育専門コースでのダンス指導:
(社)日本女子体育連盟
学術研究,0,21,55-62,

塩野谷斉 佐分利育代(2007),またあしたあそぼうねー幼稚園は人間力への確かな一歩ー,
古今社



佐分利育代(2008)聴覚障害児と視覚障害児の即興表現に現れた運動のダイナミクス,舞踊教育学研究10号,pp.14-25

佐分利育代(2009) 割り箸を使って-感じ合って動く-,女子体育,vol.51-7・8,pp.28-29

佐分利育代(2010) インクルーシブ・ダンス『見える子どもも、聞こえる子どもも』,女子体育,vol.52-7・8,pp.98-99

JAPEW研究奨励賞:
社団法人 日本女子体育連盟,
2005年2月11日



教えないダンス指導

ダンスは体と体の動きを通して出合ったことを再び体と体の動きを通して表現する活動である。「心が何と出合ったのか、そして心がどう動いたのか」それがそのままダンスに現れる。

幼児、小・中・高校生、大学生、大人と呼ばれる人達とも踊った。様々な個性と出合った。日本でも、ベトナムでも。

子どもたちには「自分の体と体の動きで身の回りの様々なものと出合い、出合ったままに動くこと」の楽しみを伝える。大人達には「心が動くから体が動く。動いたからだが再び心を動かす」そんなダンスの連鎖の面白さを思い出してもらう。指導は、「教える」ではなく、「引き出す」でもなく、「受け取る」こと。体と体の動きを通して相手が発信する心の動きを受け取って、真似して再び相手に返す。「あなたに見えたのはこんな素敵な世界だったのですね」「こんな素敵なことを教えてくれてありがとう」と。年齢、障害、個に応じた内容は一人一人の表現に内在する。



鳥取県での活動

平成17年より 鳥取県女子体育連盟会長

平成20年より (財)日本女子体育連盟理事

平成18年より 鳥取市しゃんしゃん祭りに、傘踊り連”鳥取県女子体育連盟「繫」”として参加

平成18年 スポレク開会式公開演技総合プロデュース 麒麟獅子4頭だてを構成



新倉

教授

NIIKURA, Ken



健

1951年神奈川県生まれ。

武蔵野音楽大学大学院（作曲専攻）修了。

作曲を福島雄次郎、金光威和雄、指揮法を長谷川朝雄、久保田洋の各氏に師事。

日本作曲家協議会、日本アートマネジメント学会会員、作曲グループ「樹」及び、作曲工房「パバゲーノ」同人。

鳥取大学フィルハーモニー管弦楽団指揮者、鳥取女声合唱団指揮者、鳥取オペラ協会理事、鳥取男声合唱団員。

研究テーマ

- ・日本語による新作オペラの作曲と上演
- ・朗読と音楽による音楽物語「音の絵本」の作曲と上演
- ・各種編成による室内楽作品及びオーケストラ作品の作曲
- ・コンサートの企画・運営

マドリガル

～2人の打楽器奏者と6人の女声のための～

ゴング・エカサマ・ブダヤ

～クラリネット、ピアノ、打楽器のための～

夏のカノン

～リコーダー・アンサンブルのための～

広島が言わせる言葉

～メゾソプラノ、ヴァイオリン、チェロ、ピアノのための～
（朗読を付け加えることもできる。）

ケンタウル祭の夜

～オーケストラのための～

ギター・ジャズに寄せる三つのヴォカリーズ

～メゾソプラノ、リコーダー、ハープのための～

星めぐりのためのエスキース第3番

～2台のピアノのための～

星めぐりのためのエスキース第5番

～オーケストラのための～

歌の祭り

～独奏ヴィオラのための～

引地川

～ヴァイオリン、クラリネット、トランペット、トロンボーン
ファゴット、コントラバス、打楽器、朗読のための～

バレエ「流し雛幻想」

～オーケストラ～

セント・ギガ

～独奏ピアノのための～

ワクワク

～バリトンとピアノのための～

谷川俊太郎の詩による四つの唄

～バリトンとピアノのための～

バレエ「忍冬（すいかずら）」

～オーケストラ、混声四部合唱～

作曲・指揮

ソングカグ第2番

～オーケストラのための～

ミュージカル「茜 飛天」

樹下

～ヴィオラ、ハーブ、弦楽オーケストラのための～

トッカータ「雲の信号」

～ヴァイオリン、フルート、チェンバロのための～

青谷町の民話による合唱オペレッタ「すいとんさん」

(女声合唱)

オペラ「ポラーノの広場」

「橋」

～ギターソロのための～

合唱オペレッタ「ゆめくい小人」

(女声合唱)

同声合唱とピアノのための合唱組曲

「こどもの肖像」

アジール

～オーケストラ、古代楽器～

男声合唱組曲

「男の唄」

朗読と音楽による「音の絵本」

1.モチモチの木 2.よだかの星 3.どんぐりと山猫 4.スーホの白い馬

少年少女合唱のための合唱組曲

「おじゃれ 子どもたち」

オペラ

「窓—ウィンドウズ—」



西岡

教授 NISHIOKA, Chiaki



千秋

■滋賀県草津市生まれ

昭和54年3月

武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科卒業

昭和57年3月

武蔵野音楽大学大学院音楽研究科修士課程（声楽専攻）修了

昭和57年4月

鳥取大学教育学部助手

■現在

鳥取大学地域学部附属芸術文化センター教授

鳥取オペラ協会演奏部長・副会長

鳥取県合唱連盟副理事長

第九鳥取公演推進委員会会長

こーらす「萌の会」指導・指揮者

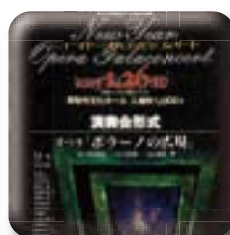
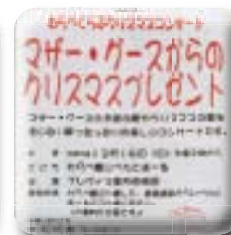
ブレヴィス・レディースアンサンブル（ブレヴィス・キンダーリートアンサンブル）指導・指揮者

合唱団しかの 指導・指揮者

岡野貞一記念合唱団 指導・指揮者

■研究テーマ

1. 初心者の発声指導に関する研究
2. オペラ演技及び演奏法の研究
3. 合唱演奏法の研究



声楽・指揮

現在までの社会における活動

NHK全国学校音楽コンクール

鳥取地区審査員

県民による「第九」鳥取公演合唱指導

県民による第九公演実行委員会理事

第22回全国高等学校総合文化祭
合唱部会講師

とっとりキッズシンガーズ

指揮者・主宰

鳥取県合唱連盟指導研究部長

中国合唱コンクール大会役員

鳥取県合唱フェスティバル

実行委員会副委員長

全日本おかあさんコーラス中国支部
鳥取大会実行委員会副委員長

第17回国民文化祭とっとり2002
「オペラ」事業別部会委員

第17回国民文化祭とっとり2002
「合唱」事業別部会委員

地元アーティスト支援事業
「声楽」企画実行委員

「とっとの芸術宅配便」
西洋音楽部門委員

鳥取市民歌等検討委員会
市民歌検討部会員

わらべ館童謡・唱歌資料収集委員

鳥取県総合芸術文化祭
東部地区運営委員会委員

岡野貞一誕生130年記念事業
実行委員
ほか



動画再生可能な携帯電話などから、演奏を聴くことができます。パソコンの場合は、YouTubeで「西岡千秋」と検索してください。



平井

教授 HIRAI, Satoru



覚

■東京生まれ

昭和54年3月

筑波大学芸術専門学群構成専攻
卒業

昭和56年3月

筑波大学大学院芸術研究科
修士課程（デザイン専攻）修了
芸術学修士

昭和56年9月

茨城県新治郡桜村立
竹園東中学校期間付講師

昭和58年4月

東京都立青鳥養護学校教諭

昭和58年7月

筑波大学技官（準研究委員）

昭和61年4月

鳥取大学教育学部講師

■現在

鳥取大学地域学部附属
芸術文化センター教授

研究テーマ

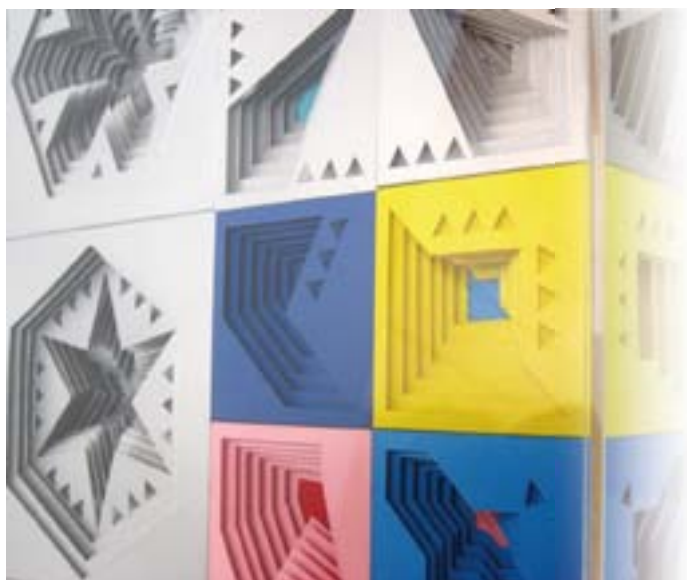
レピテーションの技法による作品
制作を通しての平面構成、立体構
成、グラフィックデザインの研究。

■造形やデザインにおける平面構成や立体構成という考え方は、20世紀初頭に初めて出現した美術やデザインの総合的な教育機関であるバウハウスにおける基礎教育の方法から生まれた。絵画、彫刻、多様なデザイン分野や建築などの多くの造形活動に共通する造形活動の基礎部分を効率的に学習する必要があるために着目され、シンメトリー、リズム、バランス等のいろいろな造形やデザインに共通する要素が見出された。私は、その中の要素の一つであるレピテーションの手段を用いて平面構成、立体構成、グラフィックデザインの作品制作による研究を主に行っている。



デザイン■テレビ愛媛シンボルマーク
コンテストにおいて最優優賞となり、2
0年経過後の現在も同社のシンボル
マークとして多方面に使用されている。
毛筆で描いた類似の4本の線を繰り返
して使用したレピテーションによるデ
ザイン。

（写真中央の新聞：愛媛新聞、グッズ
提供：テレビ愛媛㈱）



立体構成■雪のデザイン賞に出品し受賞した作品のバリエーション。立方体ユニットを繰り返して使うレピテーションの方法で制作した。小型の作品であるが、小さくても宝石のように輝くような作品を目標にしている。

立体構成■第6回エネルギー賞に出品し受賞した作品のバリエーションで、題名は「エネルギー詰め合わせセットB」。内側にも立方体を内包した立方体ユニットを上下左右にも繰り返して組み合わせたレピテーションによる立体作品。



平面構成■第66回現展（主催：現代美術家協会、会場：国立新美術館）のデザイン部門に出品し会員賞受賞となった作品。同じ幅の細い線を何本も繰り返して使って図柄を見えるようにしたレピテーションの方法による作品。

デザイン

全国コンテスト、公募展での受賞

第10回現代美術今立紙展
マルイチ・ジバング賞

テレビ愛媛シンボルマークコンテスト
最優秀賞

第2回紙わざ大賞
準大賞

中谷宇吉郎生誕100年記念
雪のデザイン賞
金賞（最優秀）

第6回エネルギー賞
TEPCO銀座館館長賞

第66回現展
会員賞

現在までの審議会委員等による地域貢献

第2回鳥取県家具デザイン
高度化特定事業開発委員

鳥取県産業デザイン
振興対策協議会専門委員

鳥取県就職指導員試験委員

鳥取県屋外広告物審議会委員

鳥取市景観形成審議会委員

鳥取県美術展覧会審査委員

鳥取県美術展覧会運営委員

鳥取市ナインエリアマップ
提案競技審査会審査委員

ほか 多数